

令和七年度 卒業式 式辞

季節は確実に移り変わり、この移り変わりは私たちの人生そのものです。

本日、ここに岐阜県立国際園芸アカデミーを卒業していく二十名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

ご列席のご家族の皆様へも、心よりお祝いを申しあげます。

また、このたびはご多忙にも関わらず、岐阜県議会の小原尚議長はじめ多数の来賓の方々のご臨席を賜り、ここに岐阜県立国際園芸アカデミー卒業式を挙行できますことは、誠に大きな喜びでございます。

皆様方には平素から本学の教育運営に多大なご理解とご協力、ご支援を賜っておりますことに、この場をお借りしまして改めて厚く御礼申しあげます。

さて卒業生の皆さんは、二年前に花と緑の知識と技能を身に付けることを目標に、志を胸に抱いて本学に入学してこられました。今、今日のこのよき日を迎えるにあたって、このキャンパスで過ごしてきた楽しくもあり苦しくもあつたであろう様々なことが頭の中を駆け巡っていることと思います。

アカデミーでの楽しかったのは支えられた証拠、厳しかったのは成長した証拠、いろいろあつたすべてのことに共に祝福しましょう。

皆さんが入学してこられた時に私から話したことを少し思い起こしてみますと次のようなことです。

失敗を恐れずに果敢に挑戦してほしい。失敗しないためには何もしなければよいのです。それでは挑戦も、成功も、やり甲斐ありません。失敗を認めて反省しなければ進歩ありません。もつと言えば、成功とか失敗の二元論ではなくて、常に環境が変わる中で、その時々最善と思われる選択をして、常に工夫を重ねていくことが大事です。

自分たちがやってみたいと思ったこと、面白いと思ったことに挑戦し、世の中の

環境や価値観の変化を感じながら、常に軌道修正していくことを心掛けてほしい。

このような話をさせていただきました。

本学の「基本方針」は、花と緑の実践技術を修得した「実務者の育成」です。

「学べば変わる」は幻想です。変化を起こす人間はいつだって「とりあえず動いた人だけ」であり、つまり必要なのは、知識ではなく「勇気」です。先ずはやってみる、一歩目を踏み出す、でも失敗する、恥をかく、笑われる、そんなことを全部飲み込んで、それでも進む、それが「実践する人間」です。

人間は一人一人が一本の木のようなものであり、豊かな土壌がそれを育てます。苗木は豊かな土壌によって育ち、枝葉を伸ばげ始めると「教育」という剪定をしてバランスをとってやる必要があります。

そして、大きく成長すると風当たりが強くなるので、自分の「意志」でこれを防がないと傾きかねません。さらに成木となると他の木と「共生」を図ることも必要となります。

豊かな土壌は先人たちの苦勞、汗と涙の結晶であることに感謝をしなければなりません。

本日ここにめでたく皆さんが卒業を迎えることができるのは、たゆまぬ努力の賜物であるのはもちろんですが、支えていただけたご家族や関係者のお陰でもあることも伝えておきたいと思えます。

今まで親にいろんなことをしてもらったり、心配もかけたりしたでしょう。それを思い出してください。

あなた方を学校に行かせるために親は一生懸命働いてお金もたくさん使われた。そういうことを考えたら、学校の先生に「お世話になりました」という前に、まず親に感謝してください。

あなた方が入学してきたときに私は親さんに「学生は命を懸けて守ります」と約束しました。幸い私が命を落とすことなく皆さんが卒業してくれましたので、私はあなた方に心から感謝します。

最後にあたり、人生はあなた方の思った通りになるのではなく、あなた方のやっ
たとおりになるのです。さあ、これからは「自分にしか咲かせられない花を、どこ
に置かれても精いっぱい咲かせましょう。最終的に人が必要とするのは「知識」で
はなく「覚悟、勇気」です。

以上、皆さんの将来に幸多きことを祈って、はなむけの言葉とします。

令和八年三月三日

岐阜県立国際園芸アカデミー 学長 今西 良共